めばえ

2026.11.18　瀬戸ひなご幼稚園園長　神戸洋美

児童虐待のニュースに触れて



大阪で８月、３歳のお子さんが虐待死した悲しい事件が起こってしまいました。市から虐待の疑いがあるとして通告を受けた子ども家庭センター（児童相談所）が、緊急性がないと判断し、警察との即時の情報共有を見送っていたとのことで、警察には、他の事例とまとめて後日に伝える予定だったとの事です。児童相談所は「適切な対応だったか市と検討する」と発表しました。

このような事件が起こるたびに、『未然に防ぐことはできなかったのか』との課題が必ず言われます。亡くなったお子さんに虐待の疑いがあるとして関係機関から通告が寄せられたのは、昨年７月１８日が初めてで、同１２月、今年３、６月、７月２１日の計５回でした。１年前から通っていた保育園や幼稚園があざを確認し、虐待の疑いがあるとして市に通告していたにも関わらず、このお子さんは保護されませんでした。もっと周りから手を差し伸べられなかったのかと多くの方が思われたことでしょう。

2018 年に公開された「万引き家族」という映画をご存じでしょうか。様々な事情を抱えた 5 人家族に、虐待を受けていた女の子を連れ帰って６人家族での生活が始まります。貧しいながらもお互いに助け合って生活していますが、女の子が「失踪事件」として扱われ、連れ戻されてしまいます。その結末は、他人同士の家族からは大切にされていたのに、実の親からはまた虐待を受ける生活に戻ってしまうという物語でした。本当の家族とは何か、を考えさせられた映画でした。

以前、他県の園長先生から「幼児虐待」についての講義を受けたことがあります。印象に残った言葉が「今、僕たちがこうしている間にも、どこかで虐待を受けて泣いている子どもが必ずいる。どうやったら救えるのか、児童相談所や警察、我々幼稚園や保育園はもちろんだが、もっと社会全体で子どもたちを見守る体制を作っていかなければならない。」と話されました。以前にもお伝えしましたが、「１８９」という番号があります。大切な子どもたちを見守っていく意識を高めなければと実感しました。



情報はダダ洩れ？

最初に「個人情報流出事件」のニュースを聞いた時には、驚きと共に「どうしたらいいのだろう。自分の情報は大丈夫か？」と不安になりました。「GMO インターネット」に始まり、「タイムズカー、佐川急便、講談社、RIZAP、etc.」等、次から次へと大手企業やチェーン店などにも広がってきています。「パスワードや ID を変更しないと個人情報が盗まれて悪用される？早く手を打たないと！」と最初の頃は慌てましたが、ほぼ毎日、個人情報漏洩のニュースが流れ、段々感覚がマヒしてきて、「もはや手の尽くしようがない？」と今はあきらめの境地。それって私だけでしょうか？

今思えば、個人情報流出事件が騒がれる前にも、自宅のパソコンには偽りメールがたくさん届いていました。「引っかからないように」と削除しているうちに、本物のメールがどこかに行ってしまい慌てて探すなど、ネット社会の便利さと複雑さに追いついていけない自分にあせっています。でも冷静に考えてみれば、引き落としされて困るほどの大金は通帳にもどこにもないし、今更パスワードや ID を変えても覚えられないし（だから 100 均のメモノートがバカ売れらしい！）、私みたいに困っている方々が世の中にいっぱいあふれているんだなあと実感しました。

「もう今更じたばたしたって。」とあきらめの境地で、ある TV で観た「自衛の方法」をするようにしています。「身に覚えのない金額が引き落とされていないかこまめにチェックする。不明な引き落としがあると 60 日以内でないと返金されないので、すぐにカード会社へ問い合わせをする。」その２点だけを心がけて自衛をしようと思っています。人間はこの先、どこへたどりつくのでしょうか？